

## 1. 流域の変遷

### 1-1 流域の概況

沙流川は、日高山脈の日勝峠付近に源を発し、ほぼ南西方向に流下している。途中、芽室岳(1,745m)、ルベシベ岳(1,740m)、チロ口岳(1,880m)、ピハイ口岳(1,917m)等に源を発するウェンザル川、ペンケヌシ川、パンケヌシ川、千呂露川等と合流し日高町に至る。さらに戸蔦別岳(1,960m)、幌尻岳(2,052m)に源を発する額平川等の支川と合流し、平取町を経て門別富川にて太平洋に注ぐ流域面積は1,350km<sup>2</sup>、幹川流路延長は104kmの一級河川である。

流域内市町村は日高支庁の日高町、平取町、門別町の3町にまたがっている。

### 1-2 沙流川の由来と歴史

沙流川は、その原名を「シシリムカ」と言って、「満潮毎に集まる砂が多くて、その河口がふさがって高台になっている」という意味であるが、沙流川流域はアイヌ民族の「サル・ウン・クル」(葦原・住む・人々)一族の中心地であり、その後の郡制時代には「沙流郡」といったことなどから「サル」がそのまま使われるようになったと言われている。

流域は、先史時代から人々の生活の足跡を残し、アイヌ文化の時代にあっては道内で有数のコタン(集落)を形成し、また、サルウングル一族の舞台となっていた。このアイヌ民族の伝統・文化は今日の流域社会に深く結びついており、チプサンケ、ユーカラ、アイヌ古式舞踊などが今日まで受け継がれている。

道内では比較的気候温暖で林産資源に恵まれ、下流部は沃野を形成して農耕地として明治初期からひらけ水田、牧畜等が営まれ発展してきた。近年は軽種馬の産地として有名で、全国軽種馬生産頭数の約80パーセントを占める日高支庁の一翼を担っている。

現在、農用地の拡大造成、総合観光開発の推進、地場産業の育成、生活環境の整備など21世紀に向けた地域の自立活性化方策が図られている。また、苫小牧東部地区、新千歳空港から近く、建設中の高規格道路と連携し日高圏内の産業発展のため重要な地域である。

図 1-1 沙流川水系 概要図



流域図凡例

- 基準地点：
- 主要な地点：
- 主な市街地： 名称
- 流域界：

## 2 . 流域の自然状況

### 2-1 地 形

流域の周辺は、東は北海道の脊梁をなす日高山脈の 2,000m 級の山が連なり、北や西は 1,000m 級の山で連なった分水嶺を持っている。流域の形状は、ほぼ北東にのび、流域平均巾は約 13km と比較的細長い形状である。

流域の形成は、上流部の日高山脈は中世代末から新世代にかけての日高造山運動の時代に既成され、山腹斜面は急峻な満壮年期的な地形をしており、河川勾配も 1/100 程度を示す。また、中流部は、おおよそ標高 100 ~ 400m の範囲にあり、山腹斜面は一般的にやや緩傾斜を示すようになるとともに、河岸段丘の発達が顕著な晩壮年期的地形を示し、河川勾配も 1/125 ~ 1/200 程度で日高町、平取町振内および貫気別などの主要集落がみられるようになる。下流部は、標高 100m 以下となり、山腹斜面はさらに緩斜面を示すとともに、河岸段丘もさらに広く発達し、海岸段丘もみられるようになり、平取本町から下流部には沖積平地の発達もみられるような晩壮年期 ~ 老年期的地形を示し、河川勾配も 1/500 ~ 1/800 程度となる。

### 2-2 地 質

流域の地質は、古生層の 1 部を除き主に白亜紀層と新第三紀層より成り立つ各種の層群と貫入岩で形成されている。貫入岩帯は主稜部に発達し、火成岩類では斑禰岩、カンラン岩、変成岩では結晶変岩・変麻岩が多い。

層群では水系の東側より、黒色粘板岩・細砂岩のなかに硅質岩・輝緑凝灰岩を介在又は互層する日高累層群、砂岩・泥岩を主とする富良野層群、輝緑凝灰岩を主に硅質岩・粘板岩等を含む空知層群（この層群には蛇紋岩が振内北部から左岸にかけて分布する）などが南北に帯状に連なり、そしてその両側には滝の上層・川端層から成る新第三紀層が連なっている。

地表は一般に砂礫を混入した砂壤土・植壤土でおおわれているが、川に面する急斜地では基岩の露出している箇所が多い。下流部においては、土砂の堆積等で土壌も厚いが、表層には樽前火山灰が 5 ~ 20 cm 程度堆積している。

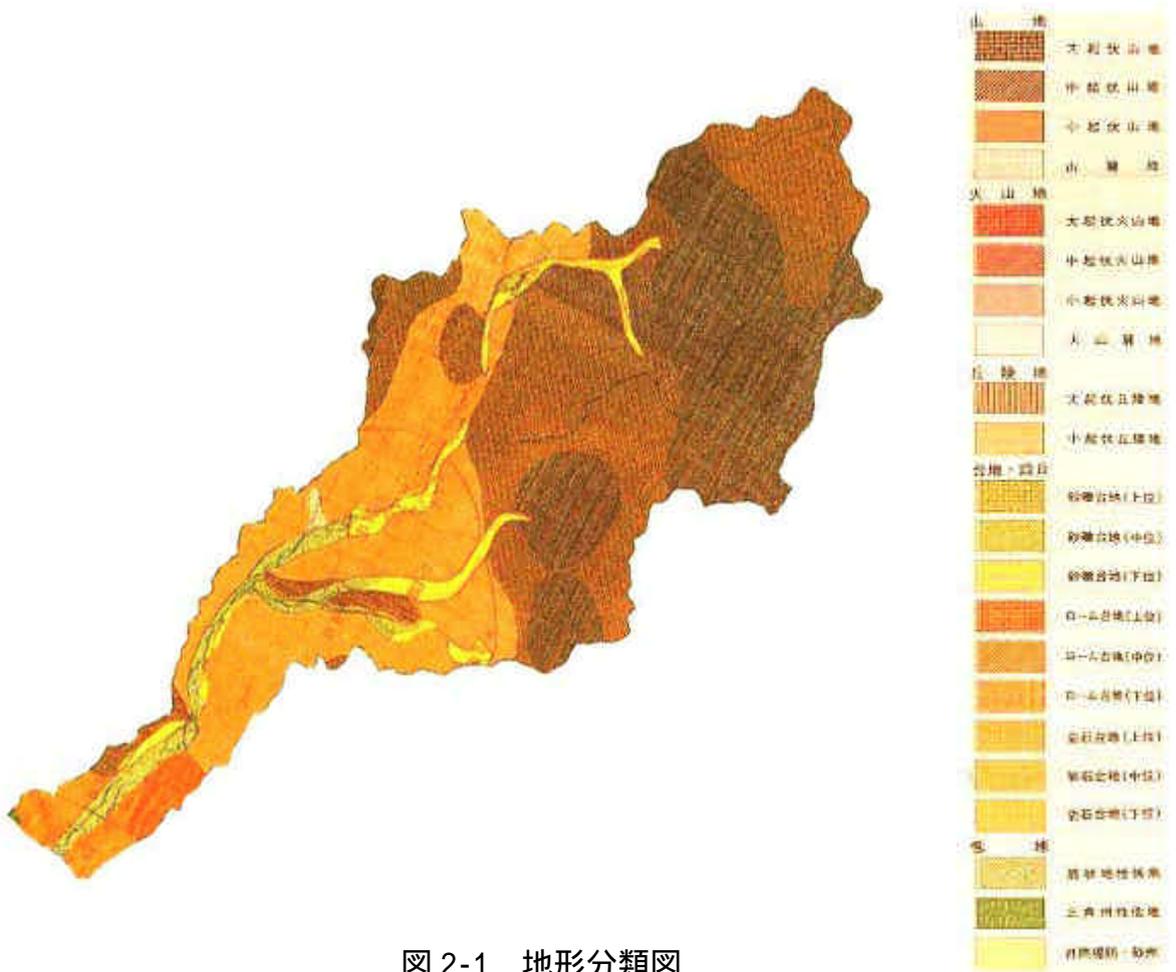


図 2-1 地形分類図



図 2-2 表層分類図

出典：土地分類図（北海道 日高・十勝支庁）昭和51年国土庁土地局

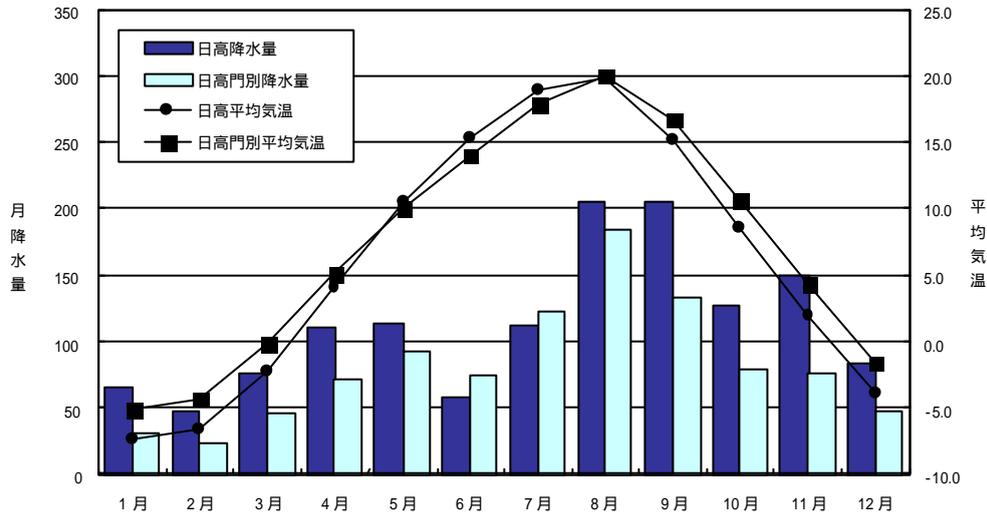
## 2-3 気 象

沙流川流域は、太平洋側西部気候区（表日本型）に属し、太平洋岸から内陸へ約 80km の南北方向にやや細長い形状の地域である。

海岸部（門別町）の夏は、沿岸を何かする親潮の影響で、あまり昇温せず海霧を伴う冷涼な日が続く。また冬は、シベリア大陸からの影響が弱いため、積雪量の少ない比較的穏やかな気候となり晴天の日が多い。

年平均気温は日高門別で 7.3 であるが内陸にはいるにしたがい標高が高くなるため低下し、日高では 6.2 である。年平均降水量は、日高門別で 975 mm、日高 1,353 mm である。日高は内陸的で 8 月の最高月平均気温は 22.7 、1 月の最低月平均気温は -9.5 と寒暖の差が大きく降雨も台風や低気圧の影響を受け、8、9 月には 200 mm/月を越える。日高門別では、海岸性で気温差も少なく冬期の積雪も少ない。8 月の最高月平均気温は 22.9 、1 月の最低月平均気温は -5.2 である。降雨は 7～9 月が 120～190 mm/月と多いが、これ以外の月は 100 mm/月以下である。

図 2-3



出典：北海道の気象 統計期間 1987年～1996年

表 2-1

	日 高		門 別	
	平均気温 ( )	年降水量 (mm)	平均気温 ( )	年降水量 (mm)
1987	5.6	1,283	6.6	900
1988	5.6	1,029	6.6	763
1989	6.9	1,512	7.8	940
1990	7.4	1,538	8.5	1,082
1991	6.6	1,184	7.6	769
1992	5.9	1,728	7.0	1,223
1993	5.7	1,181	7.0	1,050
1994	6.5	1,218	7.8	878
1995	6.2	1,518	7.5	1,187
1996	5.3	1,342	6.7	956
平均	6.2	1,353	7.3	975

出典：北海道の気象 統計期間 1987年～1996年

### 3 . 流域及び河川の自然環境

#### 3-1 流域の自然環境

地形は、最上流部の日高山脈が日高造山運動の時代に概成された標高 600m 以上の大起伏山地で、山腹斜面は急峻な満壮年期的な地形をしており、標高 1,600m 以上の山腹にはカール地形が発達している。また、上流部は標高 200 ~ 600m 程度の中小起伏山地で、河川沿いに砂礫台地が広がる。中流部はおおよそ標高 200 ~ 400m の小起伏山地で、河岸段丘の発達が顕著な晩壮年期的地形を示している。下流部は、標高 100m 以下で、河岸段丘も見られ、平取本町から下流部には沖積平地の発達もみられるようになり、晩壮年期、老年期的地形を示す。

流域の植生は、流域面積の 82.6% を占める森林植生に代表され、その分布は気候条件により温帯、低山帯、亜寒帯、高山帯に区分される。温帯、低山帯植生は標高 500m 程度までにエゾイタヤ、シナノキ群落が見られ、センノキ、ハルニレ等を随伴して分布する。亜寒帯、亜高山帯植生はこの群落の上流で標高 1,000m 程度までの間にエゾマツ、トドマツ群落、エゾマツ、ダケカンバ群落がアカエゾマツ、ナナカマド、ヤマモミジ、シウリザクラ、ハナヒノキ等を随伴して分布する。このうちエゾマツ、ダケカンバ群落の日勝峠付近は「沙流川源流原始林」として天然記念物に指定されている。この群落の上流は高山帯に移行し、矮小なダケカンバ、ハイマツ等が続く。植林地としては、標高 500m 以下にカラマツ等を主体とする人工林が分布する。これらの森林の林床はササが優占し標高 1,000 ~ 1,200m まではクマイザサ、それ以上の標高ではチシマザサが分布する。

流域の動物は、多様な自然環境を有する日高山系に属し、動物相は極めて豊富で哺乳類の貴重種としては、エゾクロテン、ナキウサギなどが生息し、鳥類の貴重種としては、天然記念物のオジロワシ、オオワシ、シマフクロウなどが確認されている。昆虫類では、幌尻岳周辺に天然記念物のダイセツタカネヒカゲ、カラフトルリシジミが生息し、この他、貴重種としてヒメギフチョウ、ジョウザンシジミが確認されている。両生類では貴重種のエゾサンショウウオが確認されている。



沙流川河口



沙流川中流域



沙流川上流域

### 3-2 河川の自然環境

#### 1) 上流部

最上流部は、河床は岩盤で樹林が河岸近くまで繁茂し、清澄な渓谷流で河床は比較的安定しており、平地、段丘地形もなく、原始河川の状態となっている。これより下流は、段丘地形が広がり河相は溪流で、岩盤等で構成され渓谷などが形成されている。

河道内の植生は、河岸及び隣接地にエゾマツ、トドマツの針葉樹林が見られ、哺乳類は、貴重種のナキウサギ、エゾクロテンや大型獣のエゾシカ、ヒグマなどが確認され、魚類は、清流にすむオシヨロコマ、サクラマスなどが生息する。



写真 3-1 沙流川上流部

- ・河床が岩盤等で構成され渓谷などが形成されている。
- ・エゾマツ、トドマツ等の針葉樹が河岸近くまで繁茂している。
- ・オシヨロコマ、サクラマス等が生息する。
- ・ナキウサギ、エゾクロテン、エゾシカ、ヒグマが生息する。



(無断転載・複製を禁ず)

写真 3-2 サクラマス

サクラマス (ヤマメ、北海道ではヤマベ)

サケ科

*Oncorhynchus masou*

北海道でヤマベといえは、川や湖で一生活を生活する河川残留型のサクラマスを含め、河川で見られる小型のサクラマスのことをいう。本来のそ河回遊型のものは降海して、沿岸を回遊し、急速に成長して大型のマスになる。サケなどのように北洋に出ることはない。主に流れてくる昆虫を食べる。2年目の春、13~16 ㍍に成長、鮮やかな銀白色を帯び、ウロコがはがれやすい銀毛ヤマベは海へ下る。多くの雄は、成長と成熟が急速に進み、これらは銀毛することなく川に残る。その結果、海へ下るものは雌が極めて多くなる。

海での生活は1年で、沿岸で小魚や浮遊動植物を食べて生活、大型のものは60 ㍍以上になり、3~6月に川へのぼり、川で成熟したヤマベとともに秋に産卵する。一般に北海道でヤマベ、本州でヤマメと呼ぶ。

## 2) 中流部

中流部は、河岸段丘が発達し、上流部に比べ河床勾配も緩やかになり流れが穏やかで河床堆積砂利も多くなり瀬と淵が見られるようになる。

河道内の植生は、カラムツやヤナギ類が河岸近くまで迫り、哺乳類は、中流部から下流部ではエゾリス、シマリスなどが生息し、鳥類は、河岸にカワセミ、平野部にイソシギなどの河川性の種が生息する。魚類は、サクラマス、ハナカジカなどが生息する。



写真 3-3 沙流川中流部

- ・ 上流部に比べ、河床勾配が緩やかになり流れが穏やかになる。
- ・ 瀬と淵が見られる。
- ・ カラムツ、ヤナギ類が河岸まで繁茂している。
- ・ サクラマス、ハナカジカが生息する。
- ・ カワセミ、イソシギが生息する。

### 3) 下流部

二風谷ダム地点より下流は高位段丘がみられ、右岸側主体に堤防が続き、河口付近は扇状地形で両岸に堤防が設けられている。また、高水敷は、採草地、放牧地として利用されており、河床部は、河床堆積砂利が多くなり瀬と淵が連続する。

河道内の植生は、ヤナギ類やヨシ類が水際部付近に見られ、哺乳類は、エゾタヌキ、キタキツネなどが見られる。

鳥類は、ヒシクイ、ヨシガモなど、河口部では天然記念物のオジロワシ、オオワシなどが確認されている。魚類は、コイ、ハゼなどが生息し、シシャモ、サケ、サクラマス等が遡上する。



写真 3-4 沙流川下流部

- ・ 右岸を主体に堤防が続き、河口付近で両岸に堤防が設けられている。
- ・ 瀬と淵が連続する。
- ・ ヤナギ類やヨシ類が水際付近まで茂っている。
- ・ 高水敷は採草地、放牧地として利用されており、河口付近ではせせらぎ公園として利用されている。
- ・ シシャモ、サケ、サクラマスが遡上する。



(写真提供 / 鶴川町)

写真 3-5 シシャモ

シシャモ

キュウリウオ科

*Spirinchus lanceolatus*

沿岸にすみ、ゴカイなどを食べて生活、2年で11~16センチになり成熟する。産卵の時だけ川にのぼる。10~12月にかけて夜間に海から川へ大群でのぼり、流れのある浅い砂地で産卵する。川にのぼるシシャモの雄は体が黒ずみ、雌雄ともヌメリがなくザラついている。1尾の雌に数尾の雄が寄り添い、川底の砂をはじき飛ばすようにして産卵する。1尾の雌は直径1.5ミリほどの卵を約9,000個産む。ふ化した子魚はすぐに海へ下り、沿岸での生活を始める。

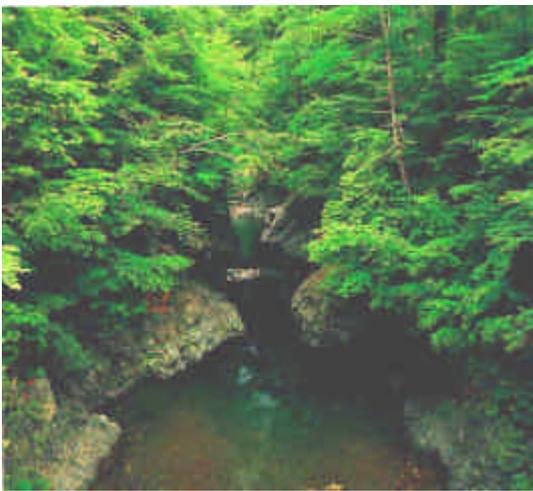
アイヌ語でシュシュハムといい、柳の葉の魚の意。天上から落ちた柳の葉を神が哀れみ、命を与えて魚にしたという伝説がある。

### 3-3 特徴的な河川景観や文化財等

#### (1) 景 観

中・上流部は、渓谷地形と両側を覆う森林美、幌尻岳、チロロ岳、貫気別山の山岳景勝地などの自然景観と二風谷ダムにより創出された湖景観で構成される。特に、沙流川源流原始林は、日高山脈襟裳国定公園の一部で天然記念物に指定されており、このほか幌尻岳の七ッ沼カール、紅葉や深緑の中を落ちるサンゴの滝、チロロ峡の峡谷、美しい絵画を思わせる轟ガロウ、切り立った断崖が続く日高竜門、深緑の中水音を響かせる仁世宇ガロウ、平取ダム左岸沿いに広がるスズランの群生地などが有名である。

中・下流部は、朝霧に浮かぶ遠くの山々を背景に牧歌的な田園風景が広がり、このほか市街地の街並み、河口の海岸景観、親水性に富んだ水際空間などで構成される。



日高町  
緑の回廊・千呂露峡



門別町  
太平洋にそそぐ



門別町  
優駿の里



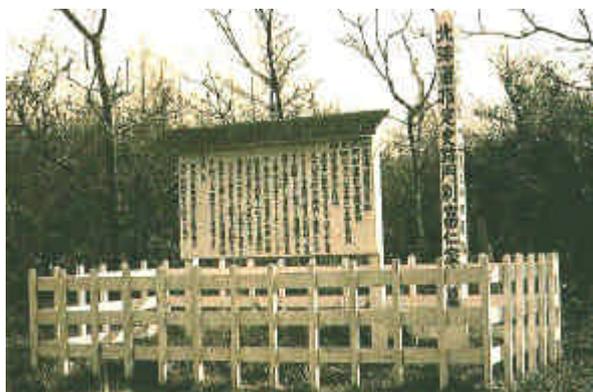
平取町  
スズランの群生地

(2)文化財及び史跡

表 3-1 沙流川流域の指定文化財の現況

種類	名称	所在及び指定年月日	概要
国指定	沙流川源流原始林	日高町 昭和45年12月 4日	日高町市街地から上流側へ30km程の区間の沙流川両岸一帯のトドマツ、エゾマツを主としたダテカンバ等の樹林地帯であり、北海道冷湿帯上部の代表的な原生林とされている。また、エゾシカ、ナキウサギ等の動物の生息が確認されている。
	アイヌ古式舞踊	平取町 昭和59年 1月29日	北海道一円に居住しているアイヌの人々により伝承されている芸能で、祭祀の祝宴等、様々な行事の際に踊られるアイヌ独自の振興を根ざす歌舞で、その様式は極めて古能をとどめ、芸術史的な勝ちが非常に高いものとされている。
道指定	門別富仁家盛土墳墓群	門別町 昭和38年12月24日	門別町市街地より西北に約40km離れた標高約50mの段丘上にある墳墓群で、縄文晩期より続縄文の文化期にかけて形成されたものである。 墳墓の直径は1 m程度の円または楕円形をしており、深さは0.5～1 m程度であり、その時代の先住民族らの葬制を知る上で非常に重要なものである。
町指定	ユーカラ（英雄叙情詩） カムイユーカラ（神謡） ウェベケレ（民謡）	平取町 昭和59年 4月17日	アイヌ民族無形文化財の中で、古くから伝承されてきた極めて勝ちの高い文化遺産であり、これを守り後世へ語り継ぐことを目的に町指定し、合わせて保持者を確認する。保持者故西島てる、故木村きみ、故黒川きよ、故川上まつ子。

資料：沙流川水系河川環境管理基本計画  
基本資料



富仁家墳墓群・北海道指定史跡（門別町史）



沙流川源流原始林

### 3-4 自然公園等の指定状況

沙流川流域は、自然環境に恵まれた地域は数多く存在しており、これらを保護、保全、管理することにより、後世に残し伝えていくうえで指定されている。

沙流川水系の自然公園等の法令指定状況は、以下のとおりである。

#### (1)鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律に基づく鳥獣保護区

指定理由：森林鳥獣生息地の保護区

名称：日勝	沙流郡日高町所在	877ha	平成 2.10.1～平成 12.9.30
名称：アベツ	沙流郡平取町所在	967ha	昭和 58.3.31～平成 15.3.30
名称：二風谷	沙流郡平取町所在	1,296ha	平成 9.10.1～平成 19.9.30
名称：穂別	勇払郡穂別町所在	447ha	昭和 58.3.31～平成 15.3.30
名称：和カクシャップ	沙流郡日高町所在	562ha	昭和 58.3.31～平成 15.3.30
名称：振内	沙流郡平取町所在	1,172ha	昭和 58.3.31～平成 15.3.30

指定理由：誘致地区の保護区

名称：平取 沙流郡平取町所在 55ha 平成 3.10.1～平成 13.9.30

#### (2)国指定天然記念物

名称：沙流川源流原始林

日高市街から、東北東に約 30km の地点の両側一帯に位置する。トドマツ、エゾマツを主とし、ダケカンバ等も交える。北海道の冷温帯上部の代表的原生林。エゾシカ、ナキウサギも生息している。

#### (3)国定公園

名称：日高山脈襟裳国定公園

日高山脈襟裳国定公園（昭和 56 年 10 月 1 日）は、北海道中南部の標高 1,500～2,000m級の峻険な褶曲山脈である日高山脈と襟裳岬一帯の面積約 103,447ha の範囲で、高山植物や発達した針葉樹林及びダケカンバ林等自然性の高い植生が分布し、エゾヒグマ、エゾナキウサギ、高山チョウのカラフトルリシジミ等多くの野生動物が生息している。

#### (4)道指定 記念保護樹木

義経神社の栗

信仰対象の有無：信仰対象あり。

保護制度指定：自然環境保全地域

## 4 . 流域の社会状況

### 4-1 人 口

流域内は、門別町の一部、平取町、日高町の3町で構成され、流域面積は1,350 km<sup>2</sup>である。

流域の中心集落は沙流川本流(国道237号)沿いに立地し、このうち下流部門別町富川市街が流域内では最も大きな規模を有し、また日高西部一円の拠点ともなっている。

表4-1 (平成7年10月1日現在)

区 分	3町合計	日高町	平取町	門別町	流域内*
面 積 (km <sup>2</sup> )	1,736	564	743	429	1,350
総人口(人)	23,439	2,653	6,883	13,903	16,025
世 帯 数	9,217	1,209	2,562	5,446	-
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	13.5	4.7	9.3	32.4	11.9

\* : 流域内は河川現況調査(基準年 平成2年度末)による  
出典: 北海道市町村勢要覧 平成9年(国勢調査)

### 4-2 土地利用

沙流川流域土地利用の特徴は、その地形条件を反映して山林の占める割合が非常に高いことである。

平野部の主な利用は、平取町においては、田、畑、門別町では、田畑のほか牧場に利用されている。

表4-2 (単位: km<sup>2</sup>)

	田	畑	宅 地	池 沼	山 林	牧 場	原 野	雑種地	その他
日高町	3.65	3.60	1.02	0.10	541.91	2.46	2.58	2.49	6.12
平取町	20.36	21.57	2.73	0.02	609.95	7.63	29.20	5.13	46.59
門別町	13.46	51.51	6.23	-	267.82	37.69	5.44	4.20	42.36

出典: 北海道市町村勢要覧(H9)より

表4-3 沙流川流域土地利用状況変遷

	山 地	耕 地	市街地	その他
昭和37年	91.6%	3.8%	0.0%	4.6%
昭和43年	91.6%	4.5%	0.0%	3.9%
昭和50年	86.8%	5.7%	0.0%	7.5%
昭和60年	86.5%	5.2%	0.0%	8.3%
平成2年	87.9%	5.4%	0.0%	6.7%

出典: 河川現況調査

#### 4-3 産業経済

生産額の推移は、農業粗生産額では、平成7年で約186億円と昭和60年に対し13%の伸びを示し、製造品出荷額では約204億円で昭和60年に対し32%伸びている。

門別町の漁業は約8億円と昭和60年に対し29%減となっている。

なお日高支庁管内の軽種馬生産は、全国生産の頭数の約80%を占めている。

表4-4 (単位：人、%)

	日高町		平取町		門別町		3町合計	
	人口	比率	人口	比率	人口	比率	人口	比率
一次産業	219	14	1,261	34	2,723	36	4,203	33
二次産業	433	27	826	22	1,464	19	2,723	21
三次産業	923	59	1,610	44	3,431	45	5,964	46

出典：北海道市町村勢要覧(H9)より

表4-5 単位：百万円)

	昭和60年	平成7年
農業粗生産額	16,446	18,557
製造品出荷額	15,425	20,399
漁獲高	1,101	786

出典：北海道市町村勢要覧より

#### 4-4 交 通

沙流川流域内には、国道3路線（235号、237号、274号）が走り、道央、道東、道南を結ぶ幹線機能を有している。特に、道央札幌、千歳、苫小牧と道東十勝地区との連絡ルートとして重要で、産業流通および生活交通ルートとして利用されている。

また、高規格幹線自動車網を構成する日高自動車道の整備が進められ、平成10年までに一部開通しており、今後流域を横断することから地域の発展が期待される。

一方、鉄道については苫小牧～門別～様似町を結ぶJR日高本線がほぼ海岸沿いに走り、幹線である室蘭本線と接続している。

図4-1



## 5 . 水害と治水事業の沿革

### 5-1 既往洪水の概要

表 5-1

水 害 年 月 日	被 害 内 容
明治 31 年 9 月 6 日	(原因) 台風が本道南部を通り東海岸をぬけたため。 (被害内容) 日高支庁管内の沙流・静内・新冠の 3 群に被害、家屋全壊 102 戸、同半壊 19 戸、同流失 61 戸、同浸水 351 戸、田被害 8ha、畑同 2,535ha。平取死者 29 人、門別死者 29 人、佐留太小学校流失。
大正 11 年 8 月 24～25 日	(原因) 本道南東海岸を通った台風による。 (降雨量) 門別 140mm (24 日) (被災内容) 日高支庁管内死者 38 人、負傷者 13 人、家屋流失 228 戸、同浸水 1,136 戸、田浸水 1,043ha、畑同 2,763ha。
昭和 10 年 8 月 29～30 日	(原因) 猛烈に発達した台風 (960mb 以下) が銚子沖から根室付近に達したため。 (降雨量) 浦河 55mm (25～26 日) (被災内容) 日高支庁管内死者 1 人、負傷者 62 人、家屋全壊 140 戸、同半壊 241 戸、同流失 76 戸、床上浸水 155 戸、床下同 152 戸、非住家全壊 112 戸、同半壊 232 戸、同流失浸水 292 戸、護岸決壊 2 力所、道路流失損壊 13 力所、橋梁同 4 力所。
昭和 30 年 7 月 3 日	(原因) 低気圧から本道西方に延びる前線通過による。 (降雨量) 日高 85mm (被災内容) 沙流川上流平取町二風谷地区・ヌタツ地区・去場地区・紫雲古津地区、下流門別平賀地区・富川地区・富浜地区氾濫、平取町被害死者 1 人、家屋半壊 5 戸、同流失 12 戸、同浸水 72 戸、氾濫面積 1,927.9ha。
昭和 36 年 7 月 26 日	(原因) 梅雨末期の前線の通過による。 (降雨量) 豊糠 274mm (24～26 日) (被災内容) 沙流川上流平取町紫雲古津地区・ヌタツ地区・二風谷地区・門別町富川地区・豊浜地区氾濫、平取町被害家屋全壊 1 戸、同半壊 5 戸、同流失 20 戸、床上浸水 63 戸、床下同 224 戸、氾濫面積 221ha。
昭和 37 年 8 月 4 日	(原因) 台風 9 号の接近通過による。 (降雨量) 平取 108.3mm (被災内容) 沙流川上流平取町紫雲古津地区・ヌタツ地区・オユンベ地区、下流門別町富川左岸地区・同右岸地区氾濫、平取築堤溢水、二風谷築堤決壊、平取町被害死者 1 人、負傷者 2 人、家屋全壊 1 戸、同半壊 1 戸、同流失 4 戸、床上浸水 60 戸、床下同 99 戸、氾濫面積 590ha、門別町被害床上浸水 58 戸、床下同 87 戸、氾濫面積 270ha。
昭和 50 年 8 月 24 日	(原因) 台風 6 号と寒冷前線の活発化による。 (降雨量) 振内 140mm (19～24 日) (被災内容) 沙流川上流平取町紫雲古津地区・荷葉去場地区・平取地区、下流門別町河口左岸地区・富川地区内水氾濫、平取町被害家屋全壊 1 戸、同半壊 1 戸、床上浸水 5 戸、氾濫面積 30ha。門別町被害死者 1 人、床上浸水 2 戸、床下同 53 戸、氾濫面積 38ha。
昭和 56 年 8 月 24 日	(原因) 前線および台風 12 号の影響による。 (降雨量) 平取 290mm、富川 350mm (被災内容) 平取町紫雲古津内水氾濫、門別町富川地区・河口左岸地区・河口右岸地区の各所で氾濫、死者 1 人、負傷者 5 人、家屋浸水 698 戸、同全壊 27 戸、同半壊 13 戸、一部破損 19 戸。
平成 4 年 8 月 9 日	(原因) 台風 10 号から変わった温帯低気圧による。 (降雨量) 日高 176mm、平取 205mm、門別 200mm (被災内容) 富浜樋門付近および右岸 KP 0/3 で内水氾濫、家屋半壊 1 戸、一部破損 2 戸、床上浸水 50 戸、床下浸水 83 戸。

## 5-2 近年の水害実態

### (1)昭和 36 年 7 月 26 日洪水

満州の低気圧を伴った不連続線による雨は夜半すぎ本道の西海上に小さな低気圧が発生し、とみに湿った暖気をさそって雨量も多くなり、沙流川水系上流部の豊糠では 24 日から 3 日間の総雨量が 273 mm に達した。このため、平取町の紫雲古津地区、ヌタツプ地区、二風谷地区、門別町富川地区、富浜地区の各所で氾濫し、平取町の被害は家屋全壊 1 戸、半壊 5 戸、流失 20 戸、床上浸水 63 戸、床下浸水 224 戸で、氾濫面積は 221ha であった。また、門別町では床上浸水 2 戸、床下浸水 26 戸の被害が生じた。

### (2)昭和 37 年 8 月 4 日洪水

台風 9 号の接近にともない本道は 2 日夕方から全道的に大雨となる。その後、台風 9 号は日本海を縦断し、4 日夜半すぎに北海道へ上陸、各地の大雨による被害はさらに広がった。この台風 9 号により、沙流川水系平取の雨量は 108.3 mm に達し、沙流川上流の平取町紫雲古津地区、ヌタツプ地区、オコンベ地区、下流の門別町富川左岸地区、富川右岸地区の各所で氾濫した。被害は平取築堤が溢水、二風谷築堤が決壊するに及び、平取町では死者 1 名、負傷者 2 名、家屋全壊 1 戸、半壊 1 戸、流失 4 戸、床上浸水 60 戸、床下浸水 99 戸、氾濫面積 590ha となった。さらに門別町では家屋床上浸水 58 戸、床下浸水 87 戸、氾濫面積 270ha に及んだ。

### (3)昭和 50 年 8 月 24 日洪水

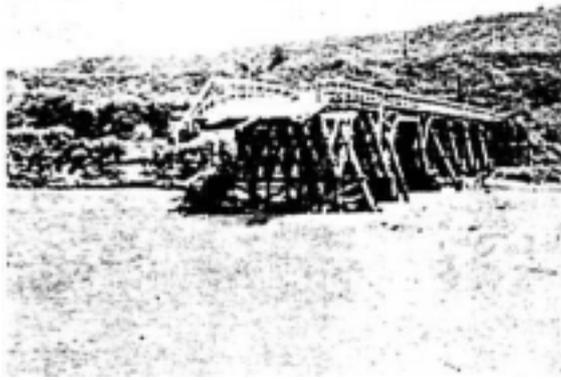
日本海を北上した台風 6 号と寒冷前線の影響で、23 日から 24 日の早朝にかけ日高地方に大雨が降り、沙流川水系の振内では、8 月 19 日から 20 日にかけて台風 5 号と同月の 22 日から 24 日にかけての台風 6 号による影響で 19 日から 24 日の雨量は 140 mm になった。このため沙流川上流の平取町紫雲古津地区、荷菜去場地区、平取地区、下流部の門別町河口左岸地区、富川地区の各所で内水氾濫があった。被害は平取町が家屋全壊 1 戸、半壊 1 戸、床下浸水 5 戸、氾濫面積 30ha で、門別町では死者 1 名、床上浸水 2 戸、床下浸水 53 戸、氾濫面積 38ha であった。

### (4)昭和 56 年 8 月 5 日洪水

オホーツク海より渡島半島を越えて日本海に達した前線および台風 12 号の影響により、3 日夜半から降り出した強い雨のため、浦賀測候所では 8 月 5 日 2 時 35 分、大雨洪水警報、雷雨強風波浪濃霧注意報を発表した。強い雨はその後降り続き、5 日夜半までに日高 179 mm、平取 290 mm、富川 350 mm に達し、沙流川水系平取観測所では警戒水位を 15 cm 超えて 24.25m に達した。このため沙流川水系の平取で紫雲古津地区の内水氾濫、門別町では富川地区、河口左岸地区、河口右岸地区の各所で氾濫した。被害は平取町で床上浸水 3 戸、床下浸水 31 戸、門別町では死者 1 名、負傷者 5 名、家屋の全壊 27 戸、半壊 13 戸、一部破損 19 戸、床上浸水 173 戸、床下浸水 491 戸に達した。

(5) 平成4年8月9日洪水

九州地方を縦断し日本海を北上してきた中型で並みの強さの台風10号は、秋田市の西北西約100kmの位置で温帯低気圧に変わり東北地方北部から本道南岸を通過した。これにより8日夕方より降り出した強い雨のため、室蘭地方気象台は、8月9日11時に胆振東部に大雨洪水警報を発令した。また、浦河測候所は、8月9日13時に日高全域に大雨洪水警報を発令した。その後、強い雨が継続的に9日夜半まで降り続き、降り始めからの総雨量は、富川214mm、平取205mmに達した。このため、沙流川水系平取観測所では警戒水位を2.80m越えた26.90mに達した。これによって、平取町では、床上浸水9戸、床下浸水40戸、門別町では、家屋半壊1戸、一部破損2戸、床上浸水41戸、床下浸水43戸などの被害が生じた。



流出した振内橋・広報びらとり  
(昭和36年7月)



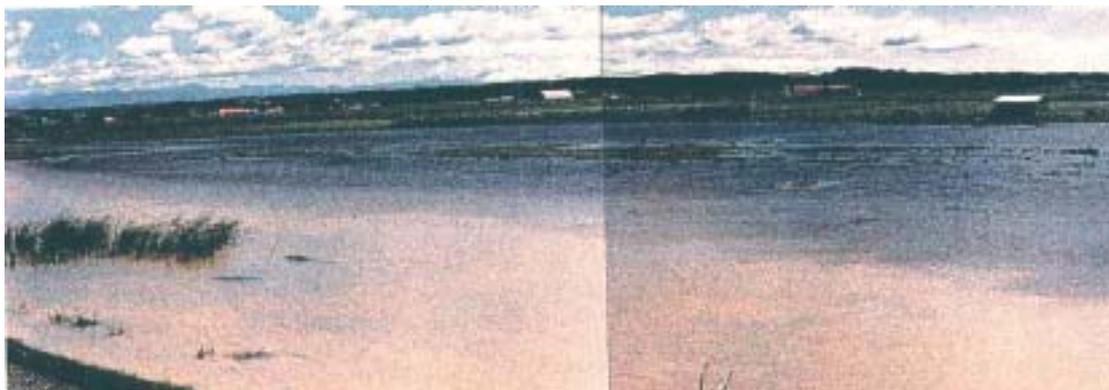
必死の護岸作業を行う自衛隊員・広報びらとり  
(昭和36年7月)



台風9号による国鉄富内線の鉄道崩落現場  
・昭和37年8月(日高町史)



沙流川氾濫による灌漑溝決壊  
・昭和37年8月(平取町史)



沙流川左岸・門別町富浜地区洪水（昭和 50 年 8 月）



沙流川右岸 C 樋門内水氾濫・門別町富川地区（昭和 56 年 8 月）



沙流川右支川長知内沢川の増水により道路決壊・平取町（昭和 56 年 8 月）



沙流川左岸富浜樋門付近一帯内水氾濫・門別町（昭和 56 年 8 月）



KP 0/3 右岸内水氾濫状況（平成 4 年 8 月）



富浜樋門付近内水氾濫状況（平成4年8月）



洪水時沙流川河口（平成4年8月）



沙流川河口（平成3年9月）

### 5-3 治水事業の沿革

沙流川の治水事業は昭和9年の旧河川法の改正により準用河川中、拓殖費支弁の河川に認定されたが、部分的な護岸などの小規模な低水路工事が行われたにとどまり、戦後の国費応急河川改修による直轄河川改修工事に引き継がれた。

昭和23年に国費応急河川改修費で事業に着手し、昭和26年から改修全体計画の基本調査を実施し、河川工事の基本となる計画高水流量を、平取基準点で $3,900\text{m}^3/\text{s}$ とした。

その後、昭和38年の改修総体計画、昭和44年の工事実施基本計画を基に一級河川に指定され河川改修がすすめられてきたが、その間、昭和37年8月、昭和41年7月、8月、昭和48年8月、昭和50年8月と洪水に見舞われ、沿岸では平取町、門別町の発展に伴い氾濫区域内の人口および資産の増大が進み、洪水被害は増加の傾向にあり、地元住民は抜本的な洪水対策を強く望んでいた。そのため昭和53年3月23日、沙流川水系工事実施基本計画の改定がなされ、流域の社会経済などの重要性から、年超過確率 $1/100$ を安全度とし、基準点平取の基本高水流量を $5,400\text{m}^3/\text{s}$ 、計画高水流量を $3,900\text{m}^3/\text{s}$ とし、その差 $1,500\text{m}^3/\text{s}$ を二風谷ダム、平取ダムなどのダム群で調節することにした。

その後、昭和56年8年、平成4年8月にも洪水が発生し下流部の富川市街地を含め、中上流部が冠水するなど甚大な被害を受けているものの、工事実施基本計画にしたがい河川改修事業を進めており、主要な工事としては、平成2年に河口導流堤、平成9年に二風谷ダムの完成等があげられる。

## 6 . 水利用の現状

河川の利用については、開拓農民による農業用水の利用に始まり、農業用水としては、約 2,400ha に及ぶ耕地のかんがいに利用され、水力発電としては、昭和 31 年に建設された岩知志発電所による最大出力 13,500kw 及び平成 8 年に建設された二風谷ダムの二風谷発電所による最大出力 3,000kw、昭和 34 年に建設された右左府発電所による最大出力 25,000kw などの電力供給が行われ、上水道用水としては、日高町、平取町、門別町等に対して供給が行われている。

沙流川水系における利水状況は、かんがい用水が最大約 13.2m<sup>3</sup>/s、水道用水が 0.07m<sup>3</sup>/s、発電には岩知志発電所外 3カ所で最大 54.6m<sup>3</sup>/s、二風谷発電所で最大 35.0m<sup>3</sup>/s の計 89.6m<sup>3</sup>/s、等が利用されている。

表6-1 沙流川水系利用現況

平成10年3月31日現在  
単位 (m<sup>3</sup>/s)

区 間	区間区分	河川数	水 道		鉱 工 業		かんがい		その他		合 計		発電			備 考
			件数	最大取水量	件数	最大取水量	件数	最大取水量	件数	最大取水量	件数	最大取水量	件数	取水量		
														最大	常時	
直轄管理区間	指定区間外	1	2	0.062	5	0.2645	3	6.1235	1	0.0047	11	6.4547	1	35.00	10.37	
	指定区間内	2											3	54.60	7.08	
	小 計	3	2	0.062	5	0.2645	3	6.1235	1	0.0047	11	6.4547	4	89.60	17.45	
その他の区間		16	1	0.00943	2	0.02834	100	7.1186	4	0.15604	107	7.31241				
	合 計	19	3	0.07143	7	0.29284	103	13.2421	5	0.16074	118	13.76711				

### 6-1 平取基準地点における過去 10 年間の流況

表 6-2 基準地点 平取

区分	H.1	H.2	H.3	H.4	H.5	H.6	H.7	H.8	H.9	H.10	最小	平均
低水流量	17.32	18.54	16.60	18.16	17.26	15.03	19.15	15.52	16.74	19.24	15.03	17.35
湧水流量	8.25	9.38	9.34	9.24	11.79	6.70	8.65	8.57	9.82	11.66	6.70	9.34
最小流量	4.32	4.88	4.02	2.86	4.45	3.79	3.13	3.04	6.30	9.96	2.86	4.67

### 6-2 沙流川水系における湧水被害

沙流川水系において、過去に大きな湧水被害の報告はない。

### 6-3 湧水調整

沙流川水系において、過去に湧水調整は行っていない。

## 7. 河川流況と水質

### 7-1 河川流況

沙流川水系は、北海道では比較的降雨の少ない地域である。

春の降水量は少なく乾燥期を呈するのに反して、夏の終わりから秋にかけて天気は崩れ全般的に雨が多い。年平均降水量は日高門別で975mm、日高で1,353mmである。月別では、8月、9月が最も多くなっている。

富川地点における年間流出量は、昭和63年～平成9年までの10カ年平均で16.0億 $m^3$ /年（流出高1,212mm）になっている。

表7-1 平取地点の流況

（平取 流域面積1,253.0 $km^2$ ）

年	区分	最大流量 ( $m^3/s$ )	豊水流量 ( $m^3/s$ )	平水流量 ( $m^3/s$ )	低水流量 ( $m^3/s$ )	渇水流量 ( $m^3/s$ )	最小流量 ( $m^3/s$ )	平均流量 ( $m^3/s$ )	年総流量 ( $10^6m^3$ )
	昭和63年	284.12	42.13	21.34	12.39	8.44	6.07	33.91	1,072.37
	平成元年	641.92	65.14	37.98	17.32	8.25	4.32	51.42	1,621.44
	2	615.19	64.79	34.33	18.54	9.38	4.88	48.98	1,544.48
	3	355.66	45.85	25.74	16.60	9.34	4.02	38.28	1,207.27
	4	3,308.29	77.51	44.53	18.16	9.24	2.86	65.49	2,071.10
	5	412.24	58.78	27.09	17.26	11.79	4.45	44.30	1,397.22
	6	949.13	53.59	24.01	15.03	6.70	3.79	43.97	1,386.53
	7	524.05	82.03	41.21	19.15	8.65	3.13	57.51	1,813.71
	8	307.17	56.55	32.40	15.52	8.57	3.04	45.54	1,439.94
	9	1,950.73	68.96	41.32	16.74	9.82	6.30	60.73	1,915.08
	最近10年間の最大	3,308.29	82.03	44.53	19.15	11.79	6.30	65.49	2,071.10
	最小	284.12	42.13	21.34	12.39	6.70	2.86	33.91	1,072.37
	平均	934.85	61.53	33.00	16.67	9.02	4.29	49.01	1,546.91

表7-2 富川地点の流況

（富川 流域面積1,323.0 $km^2$ ）

年	区分	最大流量 ( $m^3/s$ )	豊水流量 ( $m^3/s$ )	平水流量 ( $m^3/s$ )	低水流量 ( $m^3/s$ )	渇水流量 ( $m^3/s$ )	最小流量 ( $m^3/s$ )	平均流量 ( $m^3/s$ )	年総流量 ( $10^6m^3$ )
	昭和63年	338.59	46.79	24.38	17.32	11.66	6.79	39.14	1,237.74
	平成元年	766.78	69.09	40.76	22.01	9.62	6.75	56.74	1,789.36
	2	794.01	60.33	35.79	21.46	10.14	6.02	50.91	1,605.59
	3	425.42	50.22	32.93	21.26	12.13	5.17	42.43	1,338.04
	4	4,127.98	75.92	45.27	17.96	9.70	3.95	66.75	2,110.94
	5	55.64	55.14	30.07	19.98	13.58	4.55	45.39	1,431.51
	6	1,154.19	57.82	26.18	17.31	11.39	5.52	46.38	1,462.57
	7	645.46	86.94	46.73	23.27	10.47	6.09	62.12	1,959.15
	8	359.28	57.97	36.45	18.62	12.83	6.79	48.37	1,529.62
	9	2,194.17	70.09	44.61	20.87	11.57	6.60	65.59	1,565.88
	最近10年間の最大	4,127.98	86.94	46.73	23.27	13.58	6.79	66.75	2,110.94
	最小	55.64	46.79	24.38	17.31	9.62	3.95	39.14	1,237.74
	平均	1,086.15	63.03	36.32	20.01	11.31	5.82	52.38	1,603.04

## 7-2 河川水質

### (1)環境基準

沙流川流域では、表 7-3 及び図 7-1 に示すように水質環境基準が指定されており、千呂露川合流点から上流側は A A 類型、千呂露川合流点から額平川合流点までは A 類型、額平川合流点から下流側はすべて B 類型に指定されている。

表 7-3 環境基準類型指定状況(昭和 47 年 4 月 1 日北海道告示)

水域の範囲	類型	達成期間	環境基準地点名
沙流川上流 「千呂露川合流点から上流(千呂露川を含む)」	A A	イ	千呂露橋
沙流川中流 「千呂露川合流点から額平川合流点まで(額平川を含む)」	A	イ	長知内橋
沙流川下流 「額平川合流点から下流」	B	イ	沙流川橋
千呂露川 「沙流川合流点から上流」	A A	イ	-
額平川 「沙流川合流点から上流」	A	イ	-

(注) イ：直ちに達成



図 7-1 沙流川水系水質環境基準地点および類型指定区間

## (2)主要地点の現状

沙流川における主要地点の水質は表7-4、表7-5、表7-6に示すとおりである。

平成9年度のBOD75%値は、環境基準地点の長知橋0.5 mg/l、平取0.7 mg/l、沙流川橋0.7mg/lとなっており、いずれの地点も環境基準値を満足している。

過去の経年変化をみると、各観測所とも環境基準を満足した状態で推移している。平成7年から平成9年の1級河川(直轄区間)の水質調査では、全国第4位の清流河川(道内第2位)となっている。

表7-4 沙流川長知内橋地点の水質(年平均値)

(mg/l)												
項目	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	平均	備考
pH	7.7	7.7	7.6	7.6	7.6	7.6	7.7	7.6	7.8	7.7	7.7	()内は BOD75% 値
BOD	(0.6)	(0.5)	(0.8)	(0.8)	(0.9)	(0.6)	(0.5)	(0.5)	(0.7)	(0.5)	(0.6)	
	0.4	0.3	0.5	0.6	0.6	0.5	0.4	0.5	0.5	0.4	0.5	
COD	2.3	1.9	2.2	2.0	2.1	2.2	2.1	2.4	2.1	2.0	2.1	
SS	8	6	13	7	16	29	21	26	24	17	17	
DO	12.3	12.2	11.6	12.0	12.2	12.4	12.4	12.4	12.7	12.7	12.3	
大腸菌群数	7.6	2.8	7.8	1.3	1.1	1.5	2.5	2.2	1.7	4.0	3.3	
	$\times 10^2$	$\times 10^2$	$\times 10^2$	$\times 10^3$	$\times 10^2$	$\times 10^3$						
流量	15.75	23.11	26.92	23.43	22.75	20.94	19.62	30.34	23.08	23.90	23.0	

注)日本河川水質年鑑(H10.9発行)

表7-5 沙流川平取地点の水質(年平均値)

(mg/l)												
項目	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	平均	備考
pH	7.7	7.7	7.6	7.7	7.6	7.6	7.7	7.6	7.7	7.7	7.7	()内は BOD75% 値
BOD	(0.6)	(0.6)	(0.7)	(0.8)	(0.7)	(0.6)	(0.6)	(0.5)	(0.5)	(0.7)	(0.6)	
	0.4	0.5	0.5	0.6	0.6	0.5	0.5	0.4	0.4	0.5	0.5	
COD	2.4	2.1	2.4	2.1	2.4	2.4	2.4	2.8	2.3	2.5	2.4	
SS	13	9	18	10	23	46	30	38	17	18	22	
DO	11.8	11.8	11.5	11.7	12.0	11.9	12.0	11.8	12.4	12.9	12.0	
大腸菌群数	3.0	2.3	1.4	2.3	1.7	1.7	4.5	2.5	1.1	7.2	2.8	
	$\times 10^2$	$\times 10^2$	$\times 10^3$	$\times 10^2$	$\times 10^3$							
流量	28.26	32.78	43.73	36.16	35.36	34.12	31.82	51.29	38.20	44.51	37.6	

注)日本河川水質年鑑(H10.9発行)

表7-6 沙流川沙流川橋地点の水質(年平均値)

(mg/l)												
項目	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	平均	備考
pH	7.7	7.8	7.6	7.7	7.6	7.6	7.6	7.6	7.7	7.7	7.7	()内は BOD75% 値
BOD	(0.7)	(0.8)	(0.7)	(0.9)	(0.6)	(0.6)	(0.7)	(0.9)	(0.6)	(0.7)	(0.7)	
	0.5	0.6	0.7	0.7	0.5	0.5	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	
COD	2.5	2.0	2.5	2.2	2.6	2.3	2.4	2.9	2.3	2.6	2.4	
SS	12	8	21	11	24	47	27	45	15	18	23	
DO	12.0	11.8	11.4	11.9	12.2	12.1	11.8	12.0	12.3	12.6	12.0	
大腸菌群数	6.2	2.5	2.2	1.8	1.2	1.8	4.7	3.7	3.5	1.1	2.9	
	$\times 10^2$	$\times 10^2$	$\times 10^3$									
流量	32.11	35.73	46.96	36.40	38.20	36.39	33.95	52.30	40.64	46.44	39.9	

注)日本河川水質年鑑(H10.9発行)

表 7-7 沙流川長知内橋地点の月別水質 (BOD)

(mg/l)

年	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均	備考
H7	0.4	0.2	0.3	0.5	0.4	0.6	0.9	0.8	0.4	0.4	0.3	0.5	0.5	
H8	0.2	0.4	0.2	0.3	0.6	0.7	0.7	0.7	0.5	0.7	0.2	0.3	0.5	
H9	0.3	0.4	0.1	0.5	0.4	0.6	0.6	0.3	0.2	0.4	0.6	0.3	0.4	

注) 日本河川水質年鑑 (H10.9 発行)

表 7-8 沙流川平取地点の月別水質 (BOD)

(mg/l)

年	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均	備考
H7	0.3	0.2	0.1	0.3	0.4	0.9	0.8	0.5	0.3	0.8	<0.1	0.3	0.4	
H8	0.2	<0.1	0.3	0.7	0.3	1.0	0.8	0.4	0.5	0.3	0.4	0.3	0.4	
H9	0.2	0.1	0.6	0.5	0.5	0.7	0.9	0.5	1.0	0.4	0.8	0.3	0.5	

注) 日本河川水質年鑑 (H10.9 発行)

表 7-9 沙流川沙流川橋地点の月別水質 (BOD)

(mg/l)

年	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均	備考
H7	0.9	<0.1	0.3	0.1	0.5	1.3	1.0	0.3	0.5	1.0	0.3	0.3	0.6	
H8	0.2	<0.1	<0.1	0.7	<0.1	0.7	1.2	0.4	0.4	0.6	0.5	0.5	0.5	
H9	0.6	0.5	0.7	0.3	0.3	0.6	1.3	0.4	0.8	0.2	0.8	0.4	0.6	

(H10.9 発行)

表 7-10 BOD75%値による全国清流河川ベスト 5

順位			河川名	都道府県名	BOD75%		
H9	H8	H7			H9	H8	H7
1	1	1	札内川	北海道	0.4	0.4	0.3
4	2	4	胆沢川	岩手	0.6	0.5	0.6
	2	2	姫川	新潟		0.5	0.5
4	4	4	尻別川	北海道	0.6	0.6	0.6
2	4		鷓川	北海道	0.5	0.6	0.7
4	4	4	沙流川	北海道	0.6	0.6	0.6
	4	4	後志利別川	北海道	0.7	0.6	0.6
2	4		黒部川	富山	0.4	0.6	
	4	2	宮川	三重		0.6	0.5
4	4		豊川	愛知	0.7	0.6	
	4		本庄川	宮崎		0.6	

資料：1級河川の水質 (平成9年11月北海道開発局)

## 8 . 河川空間の利用状況

### 8-1 河川敷地の利用状況

沙流川は、広大な河川空間を有しており、特に高水敷は背後地の諸条件により、その地域のニーズに適応した利用がなされている。

沙流川の流域においては、軽種馬が基幹産業であり大規模経営がなされていることから、高水敷という広い空間を採草放牧地として大いに利用しているところである。また、沙流川流域の門別町の都市区域においては、自然のうるおいやすらぎを得られる貴重なオープンスペースとして、広場・公園・緑地など多目的に利用されている。

沙流川での河川敷地としての利用状況は、表の通りである。

表8-1 河川敷地の占用状況（直轄管理区間）

単位：ha、下段（ ）：%

河川名	河川公園		水田耕作		畑 耕 作		採草放牧地		仮設建物		そ の 他		合 計	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
沙流川	3	24.8 (12)	22	9.1 (4)	-	-	109	165.9 (78)	-	-	105	12.8 (6)	239	212.6 (100)

注) 平成11年1月13日現在

### 8-2 河川の利用状況

沙流川は、沿川住民の多様な要請に伴い、沙流川橋周辺の河川環境整備事業、二風谷ダム、平取ダム建設に伴う周辺環境整備構想等が進められており、また、日高町の北海道富良野・大雪リゾート地域整備構想の計画がある。

河川を利用したイベントとしては、アイヌ文化の継承として船おろしの儀式であるチプサンケ、二風谷ダム湖内のポート大会等が実施されている。

また、一般的な利用としては、釣り、散歩、ピクニック、レクリエーション等を主体に、自然豊かな溪流や施設整備されている箇所等が利用場所となっている。平成10年度の年間利用者総数（推定）は2万3千人であり、利用形態別では、散策等が最も多く57%を占め、次いでスポーツが25%、釣りが10%、水遊びが8%となっている。



沙流川 門別地区 せせらぎ公園（平成5年）  
せせらぎ公園親水広場の風景



水遊び（沙流川・門別地区）  
せせらぎ公園の水路で遊ぶ子供達



カヌー（沙流川）  
沙流川でカヌーを行う人々



サケ捕獲場（河口から4 Km付近）  
8月～11月にサケの捕獲が行われている。

## 9 . 河道特性

沙流川は、日高山脈の北端近くに源を発し、ほぼ南西に流路をとりながら芽室岳(1,754m)、ルベシベ山(1,740m)、チロ口岳(1,880m)、ピハイ口岳(1,917m)等に源を発するウエンザル川、ペンケヌシ川、千呂露川を合流して、日高町に至る。さらに戸蔦別岳(1,960m)、幌尻岳(2,052m)に源を発する額平川等の支川を合わせながら平取町を経て、門別町富川で太平洋に注ぐ幹川流路延長 104km、流域面積 1,345km<sup>2</sup>の一级河川である。

### 上流部(岩知志ダム上流)

上流部は、日高山脈が日高造山運動の時代に概成された標高 600m 以上の大起伏山地で、山腹斜面は急峻な満壮年期的な地形をしており、標高 1,600m 以上の山腹にはカーレル地形が発達している。これより下流は、標高 200 ~ 600m 程度の中小起伏山地で、河川沿いに砂礫台地が広がる。河床勾配は 1/130 ~ 1/50 程度と急勾配である。

### 中流部(岩知志ダム~二風谷ダム)

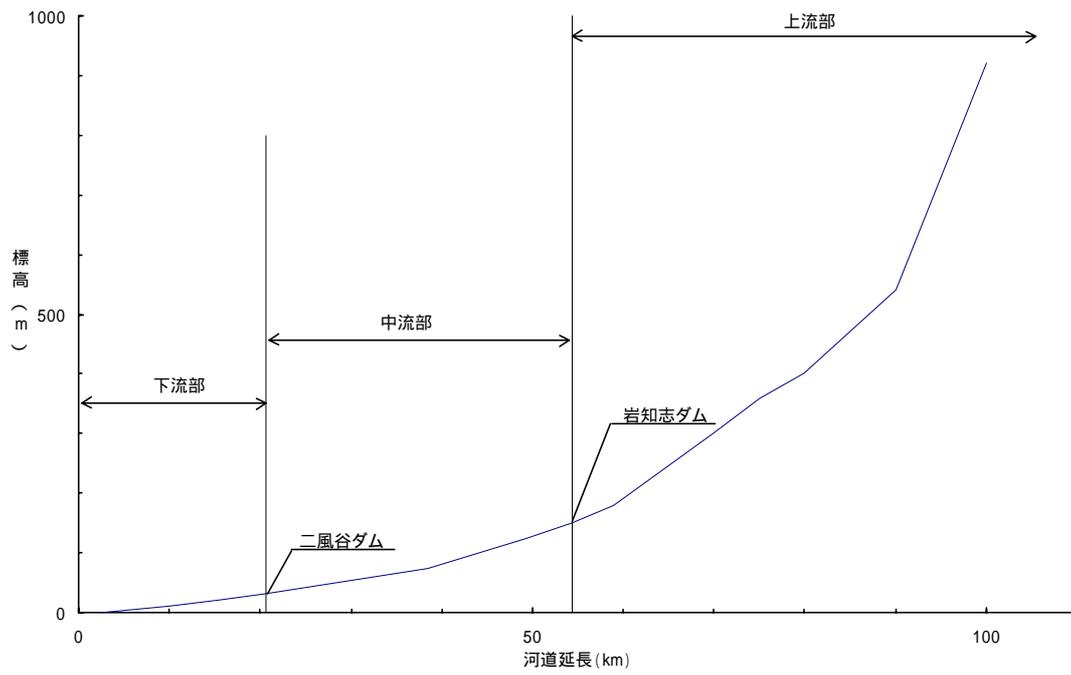
中流部はおおよそ標高 200 ~ 400m の小起伏山地で、河岸段丘の発達が顕著な晩壮年期的地形を示している。河床勾配は 1/190 程度である。

### 下流部(二風谷ダム下流)

下流部は、標高 100m 以下で、河岸段丘も見られ、平取本町から下流部には沖積平地の発達もみられるようになり、晩壮年期、老年期的地形を示す。河口までの勾配が 1/500 ~ 1/800 程度と急流で、ほぼ一定勾配の沖積地河川である。河道は経年的に浸食傾向を示しており、河床低下が進行している。

河道形状は、高水敷の狭い複断面河道が多く、網状河道が形成されている箇所もみられる。低水路は、堤間内で大きく蛇行しており、砂州の形成区間では経年的な低水路位置の移動が著しい。

低水路河床の粒径は、二風谷ダムから河口まで平均粒径 10 ~ 30mm 程度であり縦断的な変化はほとんどみられない。経年的な粒径の変化もほとんどみられない。



河床勾配	1/700	1/190	1/130	1/50
------	-------	-------	-------	------

図 9-1 沙流川河床高縦断図

## 10. 河川の維持管理

### 10-1 問題点と課題

沙流川の河川管理は、沙流川の地域の特性をふまえて、洪水、高潮等による災害の防止、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全を総合的に行うものである。

#### (1) 災害発生の防止

沙流川は、流路が変動するため、河岸侵食が激しい河川であり、現況堤防並びに護岸等構造物の機能の維持及び強化対策が課題である。

#### (2) 河道内樹木の維持管理

河道内樹木については、洪水の流勢の緩和や生態系の保全といった、治水・環境機能を有しているが、下流部では樹木の繁茂により洪水時に河積を阻害し、水位の上昇を招き治水機能上支障となっている。そのため、治水及び環境上の機能や影響を考慮した上で、適正な樹木の管理が課題である。

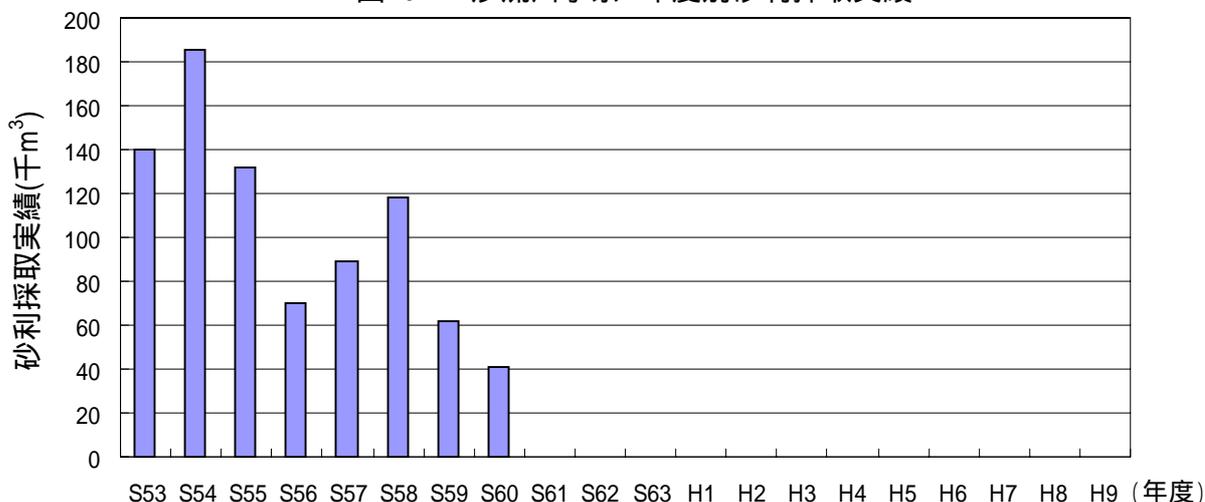
#### (3) 流域の土砂管理の推進

沙流川に遡上するサケ、サクラマス、シシャモは、地域において重要な水産資源となっているとともに、沙流川は自然産卵の場として再生産河川となっている。

特に、シシャモは、河口付近の砂を多く含む箇所を産卵床とすることから、シシャモ資源保護のため河床における安定的かつ平衡的な土砂の移動が課題である。そのため、河床や流路の維持及び土砂移動の把握が課題である。

沙流川では、昭和 61 年度から砂利採取規制が行われ、河床低下の防止やサケ、サクラマス、シシャモ等の生態系に配慮されている。

図10-1 沙流川水系 年度別砂利採取実績



#### (4)生態系への配慮

河口部のシヤマ産卵床の保全については、現状の河道を極力維持するため安定的かつ平衡的な土砂の移動が課題である。また、遡上する魚のため横断作工物に魚道の設置を行うなど自然環境への影響を考慮し、生態系の保全を図る対策が課題である。

#### (5)水質保全への徹底

水質は清流全国ベスト5に入っているなど、良好な水質を保っており、今後家畜ふん尿の汚濁処理や下水道事業との調整等関係自治体や地域住民などと連携して良好な水質を保持するための対策が課題である。

#### (6)河川環境の保全と整備

流域の土地利用は山林が82%を占め、平地の大半は下流平野に分布し、主に田園地帯が広がっている。しかし、最下流の門別町を中心に、近年は市街地化が進んでいる。

このため、スポーツ、レクリエーション活動等の河川利用、まちづくりと一体となった河川整備などの社会的要請と豊かな河川環境の保全との調整が課題である。